



拝 殿

若山神社（わかやまじんじゃ）

当社は西天王山（若山）の中腹にあり、広瀬、東大寺、桜井、神内のかつての水無瀬荘のほぼ全域の氏神として広く親しまれてきました。

社名はもと西八王子社又は牛頭天王社といわれ、祭神には素盞鳴尊^{すさのおのみこと}が祀られています。社伝によると文武天皇の時代、大宝元年（701）に僧行基が天皇の勅を受けて勧請^{かんじょう}したとされています。

後鳥羽上皇^{ごとば}も勅使^{ちよくし}を遣わされ、また、楠木正成^{くすのきまさしげ}も桜井で子、正行との別れの際に重臣を代わりに参拝させたといわれています。

素盞鳴尊は、仏教伝来によって、牛頭天王^{しゅうごう}と習合^{しゅうごう}され、明治時代には神仏分離令^{しんぶつぶんりれい}によって、この地の字名より現在の社名となっています。

宝物には、平成 1 5 年（2003）に府指定有形民俗文化財に指定された天保 2 年（1831）「東大寺おかげ踊図絵馬」や平成 2 2 年（2010）に町指定文化財に指定の「神像（伝 聖徳太子七歳像）」のほか、「勝幡寺縁起^{しょうばんじえんぎ}」や「神輿^{みこし}」、鎌倉・室町期の「木神像」などがあります。



若山神社 所蔵

神像（伝 聖徳太子七歳像）

像高は35.8cm、^{ひじはり}臂張は24.0cmで、作者は未詳です。

髪を短く両肩から背面に垂らして、衣内で拱手し胸前で組む姿の神像です。

ヒノキの縦一材から、頭頂から^{じつ}地付きまで丸彫りし、髪、衣などに彩色を施した簡素な造りで、背面の彫りは省略されています。

首をすくめた拱手の姿勢、深い面奥・体奥、大振りの^{えもん}衣文は平安時代前期的な特徴を感じられますが、彫りは形式的で、浅めになっており、制作は、平安時代後期と思われます。

大きな弧を描く眉、細い眼、細い鼻筋に極端なおちょぼ口は、この時期にはあまり見られないものです。

この像は、本町の鎮守社として住民の厚い信仰を集めてきた若山神社に「聖徳太子像」として祀られてきましたが、聖徳太子像としては例のない姿をしているところから後世に聖徳太子像として信仰されてきたものと思われます。町の最古級の神像として非常に貴重な文化財です。

平成22年4月5日に町指定文化財第2号に指定しました。